

むら  
ディスカバー農山漁村の宝  
(第8回応募団体)

取組事例集

岡山県



【お問い合わせ先】

中国四国農政局岡山県拠点地方参事官室

〒700-0927 岡山県岡山市北区西古松2丁目6-18 西古松合同庁舎3階  
☎086-899-8610

中国四国農政局農村振興部農村計画課

〒700-8532 岡山県岡山市北区下石井1丁目4番1号  
☎086-224-4511 (代表)



令和4年3月  
中国四国農政局

## 発刊にあたって

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」は、内閣官房及び農林水産省が、「強い農林水産業」「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良な事例を選定し、全国への発信を通じて他地域への横展開を図るもので、今年度（令和3年度）で8回目となります。

中国四国農政局管内では171件の応募があり、「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として7地区と2名が選定されました。

さらに、中国四国農政局では、応募のあった地区（者）の中から、他の地域の参考となるような優良な事例を、「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として13地区と2名を選定するとともに、今後の活躍が期待できる事例を、「奨励賞」として22地区を選定しました。

また、今年度応募のあった地区（者）の事例について、その地域での「農山漁村（むら）の宝」として広く情報発信するとともに、身近な地域の取組として紹介するため、各県別の事例集を作成しました。

各地域において参考にしていただき、農山漁村や農林漁業への関心を深めていただくきっかけになれば幸いです。

※「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の情報は、中国四国農政局のホームページ（下記URL）をご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/chushi/nouson/kaseika/discover.html>



令和4年3月  
中国四国農政局農村振興部

# 目 次

- 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」について ..... 1
- 応募地区(者)一覧 ..... 6
- 応募地区(者)位置図 ..... 7
- 応募地区(者)の取組事例 ..... 8

## 「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」について

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現に向けて、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国へ発信するものです。

### 1. 「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第8回選定）

今回の「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第8回選定）では、令和3年6月16日から8月31日までに、農山漁村活性化の取組として全国から651件（管内からは171件）の応募があり、令和3年11月19日に総理大臣官邸で開催された「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第8回選定）有識者懇談会において、団体部門（コミュニティ部門及びビジネス部門）で34地区と個人部門で4名が「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として選定されました。

中国四国農政局管内からは7地区と2名が選定され、その中から優秀賞の個人部に岡山県岡山市の「植田輝義」、優秀賞のコミュニティ部門に徳島県神山町の「神山しずくプロジェクト」、特別賞に広島県庄原市の「株式会社敷信村農吉」、徳島県阿南市の「黒川真太郎」、愛媛県伊方町「愛媛県立三崎高等学校『せんたんプロジェクト』」が選定されました。



「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」ロゴマーク

### 2. 中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」

中国四国農政局では、管内で応募のあった171件の中から、他地域の参考となるような優れた地域活性化の事例を「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として広く発信することとし、令和3年10月27日、中国四国農政局において選定委員会を開催し、13地区と2名を選定しました。

また、今後の活躍が期待できる事例を奨励賞として22地区を選定しました。



中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」  
オリジナルロゴマーク

### 3. 管内選定地区（者）の概要

#### (1) 全国版選定（ディスカバー農山漁村（むら）の宝（第8回選定））

##### 植田 輝義（岡山県岡山市） **優秀賞**

- 地元特産の黄ニラと岡山パクチー大使として、メディアや祭への参加により産地をPRするとともに、学校、福祉、企業とも連携。
- 岡山交通（株）とコラボし、「黄ニラタクシー」を誕生。タクシー乗務員への農業指導も実施。



2021 年国和産業株式会社コラボ  
パクチーゼリー完成

##### 草間台エコミュージアム推進協議会（岡山県新見市）

- 草間台地の自然・産業・歴史文化等の宝物を発見し、それらを護るとともに発信し、地域振興に貢献。
- 地域を自然、産業、歴史文化等の宝物にあふれる「エコミュージアム」（屋根のない博物館）と捉え、里山の維持保全等を実施。



小学生の洞窟探検

##### 株式会社敷信村農吉（広島県庄原市） **特別賞**

- 里山の自然を活かした保育所の運営を軸に、農産物やチーズの製造・販売等の地域密着型の事業を展開。
- 保育所では、園庭での野菜栽培、自社農園の農産物を使った給食の提供など、「身土不二」を教育。



地元生乳 100%の手作りチーズは  
国内外で高評価

##### 株式会社 63Dnet（山口県長門市）

- 地域食材を使った、コロナの状況でも強い商品づくりと幅広い販売チャンネルの確立により、地域事業者の収入確保に貢献。
- 農業生産者が6次産業化を行うために必要な施設や専門知識・ノウハウを補完し6次産業化を支援する「ながとラボ」を運営。



地元産マルシェ「LaLa フラン」

##### 黒川 真太郎（徳島県阿南市） **特別賞**

- 農業・食品加工・販売の3本柱の小さな6次産業を実践するとともに、子育て環境の充実として学童保育を立ち上げ運営。
- 環境保全型農業での農産物づくりを実践。お米の消費拡大のため、パンや菓子等の食品加工、全国の消費者へのネット販売も実施。



毎月1回 JRT(四国放送)ラジオで  
活動等の情報発信

##### 神山しづくプロジェクト（徳島県神山町） **優秀賞**

- 山林課題の啓発活動、町産材を活用した商品開発・販売など、地元産業振興により地域活性化に貢献。
- スギの弱点とされる赤白の木目を活かしたデザインの木製品を開発。地域おこし協力隊制度を活用した職人育成事業も実施。



スギにしか出来ない赤白の杓目が  
美しい木製品

#### 「高松盆栽の郷」推進協議会（香川県高松市）

- 国内外に向けた高松盆栽の情報発信と担い手の育成による JA 香川県「高松盆栽の郷」の発展に向けた取組。
- 4ヶ国語対応のウェブサイト等により国内外に高松盆栽の紹介・販売を実施。令和2年度はオンラインでのオークション等を実施。



高松盆栽オークション  
盆栽紹介ライブ配信

#### 愛媛県立三崎高等学校「せんたんプロジェクト」（愛媛県伊方町）

特別賞

- 高校生が主体となる地域の魅力開発及び発信により、伊方町の関係人口の増加と移住・定住者数の確保に貢献。
- 全校生徒をPR活動等、カフェ、商品開発、ツアー、アート、防災の6つのグループに分け探求活動を実施。



みさこう Café

#### 吉延営農組合（高知県本山町）

- 地域の持続可能な営農体制づくりに加え、棚田散策ツアーの実施など地域活性化を目指した幅広い活動を実施。
- 集落一体となって防護柵の設置等の獣害対策を行っているほか、田んぼアートや棚田コンサート等の都市との交流事業も実施。



吉延集落の棚田

### （2）地方版選定（中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」）

#### 株式会社大山こむぎプロジェクト（鳥取県米子市）

- 鳥取県産の小麦「大山こむぎ」を生産し、地元を中心としたパン屋や飲食店をはじめ、学校給食にも供給。
- 生産者の顔（名前）の見える商品展開を行い、生産農家の生産意欲を向上。小麦生産量の増加に取り組む。
- 生産、製粉、流通と連携する鳥取県産小麦の地域商社。



創る会（利用者）と生産者の懇親会  
～食べる会～

#### ふなおか共生の里づくり推進協議会（鳥取県八頭町）

- 次世代への取組として保育園や小学校の田植え体験を実施。
- 多面的機能支払制度の広域協定への参加により、地域の保全活動に取り組む。
- 集落と協議会で実行委員会をつくり、交流体験農園や農泊の受け入れを行う。



交流体験で梅ぼりを教える

#### 有限会社旭養鶏舎（島根県大田市）

- えごま玉子の生産と、自社工場で加工品（25 アイテム）の製造を行う。
- 大学や病院と連携し、えごま玉子を食べることの効果について検証。
- ITとオートメーション化、6次産業化を積極的に進め、社員の半数近くが女性。女性役員・管理職の登用も積極的に行っている。
- 耕作放棄地を活用し、退職者や高齢者によるエゴマ栽培を行う。



えごま玉子

#### 株式会社西粟倉・森の学校（岡山県西粟倉村）

- 木材加工品づくりの製造工程で出てくる端材を、DIY ユーザーに一点モノ端材としてお値打ち価格で販売。
- 人口約 1,400 人の村に 620 人も来客するような、モノづくり体験や端材の購入ができるイベントを開催（令和3年春に2日間開催）。



販売する端材製品のイメージ

#### 万古溪養魚観光株式会社（広島県廿日市市）

- 川と海の養殖業者が卵から成魚まで一貫生産し、1年目の種苗から海面飼育した大型種苗により成魚の早期出荷と大型化を実現。
- 養殖場に釣堀を設置。釣った魚をその場で楽しめる食事処を併設。
- 市内の短期大学と連携し、「誰でも気軽に食べられるニジマスレシピ」を考案。魚食普及に取り組む。



子供から大人まで楽しめる釣堀施設

#### FAM'Sキッチンいわくに（山口県岩国市）

- 直売所における独自の集出荷システムを用い、岩国地域全域から出荷しやすい体制を整備。
- 店舗まで生産物を持ち込めない生産者のため、巡回トラック2台により毎日集荷。
- 陳列エリアを生産者に割り当て、自ら創意工夫した販売を展開。
- 売り切れなかった商品を生産者に提供。



遠隔地の産物を集約する巡回トラック

#### 梅川 仁樹（山口県岩国市）

- わさびの超促成栽培について検証し、収益性の高い栽培技術を確立。
- 県農業士協会のリーダーとして、新規就農者等の支援に取り組む。
- 人・農地プラン等の話し合いに積極的に参加し、地域住民と課題や問題解決の共有を図る。
- 地元小学生に神楽を伝承し、伝統文化（向峠神楽）の継承に務める。



山口県農業士協会による研修

#### 吉田 ますみ（徳島県美馬市）

- 耕作放棄地となっている茶畑再生と、集落のブランディングプロジェクトに取り組む。
- 未来の子供たちへ世界農業遺産に選ばれた農耕システムの継承と新しい農文化を生み出すふるさと協働事業に取り組む。
- 緑茶に関わる人々を増やし、その魅力や活動で感じたものを発信。



地元穴吹高校生との茶染め体験

#### （株）フードハブ・プロジェクト（徳島県神山町）

- 「育てる、つくる、食べる、つなぐ」という小さな食の循環システムを通し、地域で栽培した農産物を使った食堂・パン屋・食品店を運営。地元の食材で加工品を開発。
- 新規就農者の受入や、子供の農業生産、加工、販売等の体験を実施。
- 地元の農業高校と連携し、環境保全型農業を軸とした、農業生産、加工、販売などのカリキュラムを構築。



地域のみんなでつくる加工品の開発・製造

### 大野豆プロジェクト（香川県高松市）

- 休耕田を活用して夏は大豆・黒豆・小豆、冬は空豆（一寸及び「大野豆」）を栽培し、年間合計約 1.5 t を販売。
- 地元児童・生徒による豆栽培、豆腐・しょうゆづくり体験を実施。
- 地元産の豆類を使った「豆 de 家庭料理コンテスト」を実施。



大野小 5 年生児童の「大野豆」  
収穫作業

### みとよのみプロジェクト（香川県三豊市）

- 三豊市と地元生産者が連携して市内の魅力的な農産物の 6 次産業化や地域産品の開発に取り組み、地域農水産物のブランド化を推進。
- 生産者と商品を掲載した HP の制作や SNS 等により情報発信を行う。
- 展示会、商談会への参加やフェアを開催。



みとよのみプロジェクトで開発  
された商品

### チームそら豆（香川県小豆島町）

- そら豆醤油の原料となる国産の乾燥ソラマメがなかったため、農商が連携して原料を生産。
- 需要の増加に伴い、地域の特産品としての製造を維持していくために、原料の生産拡大を行う。
- 良いものを生産するためにほ場巡回や講習会を行うとともに、生産者と収穫物の全量買い取りの契約を結ぶ。



アレルギーフリーのそら豆醤油

### 愛媛県立川之石高等学校 GAP チーム（愛媛県八幡浜市）

- グローバル GAP 認証を取得した柑橘を使って、世界マーマレード大会へ出品。
- 柑橘や柑橘加工品の輸出、GAP 認証取得、GAP 学習会、販路学習などを地元企業 3 社と連携して実施。
- 被災柑橘農家応援のため、地元や東京で復興マルシェイベントに参加。
- 大学や農業大学の職員を講師に招き、柑橘園付近の鳥獣害対策について学習すると共に生物調査を実施。



柑橘 11 品目でグローバルGAP  
認証取得

### 愛媛県立八幡浜高等学校商業研究部 A★KIND（愛媛県八幡浜市）

- 八幡浜市に水揚げされる「未利用魚」の活用を考案。
- 魚食の普及活動として、未利用魚を使った学校給食のメニューの考案や、クリアファイルで魚食マップを作成して配布。
- 未利用魚の定食提供ツアーの実施や、地元日曜市等のイベントでの販売活動を実施。



小学生との給食交流会

### 高知商業高等学校ジビエ商品開発・販売促進部（高知県高知市）


- 高校生が鳥獣被害という課題解決に向けてジビエ活用商品を開発。
- 高知県産の赤牛や規格外野菜を使用したジビエ商品を考案し、高校生ジビエ・レストランを出店して提供。
- 販売利益をシカなどの食害を受けた森林保護活動に寄付するとともに、植樹活動にも参加。



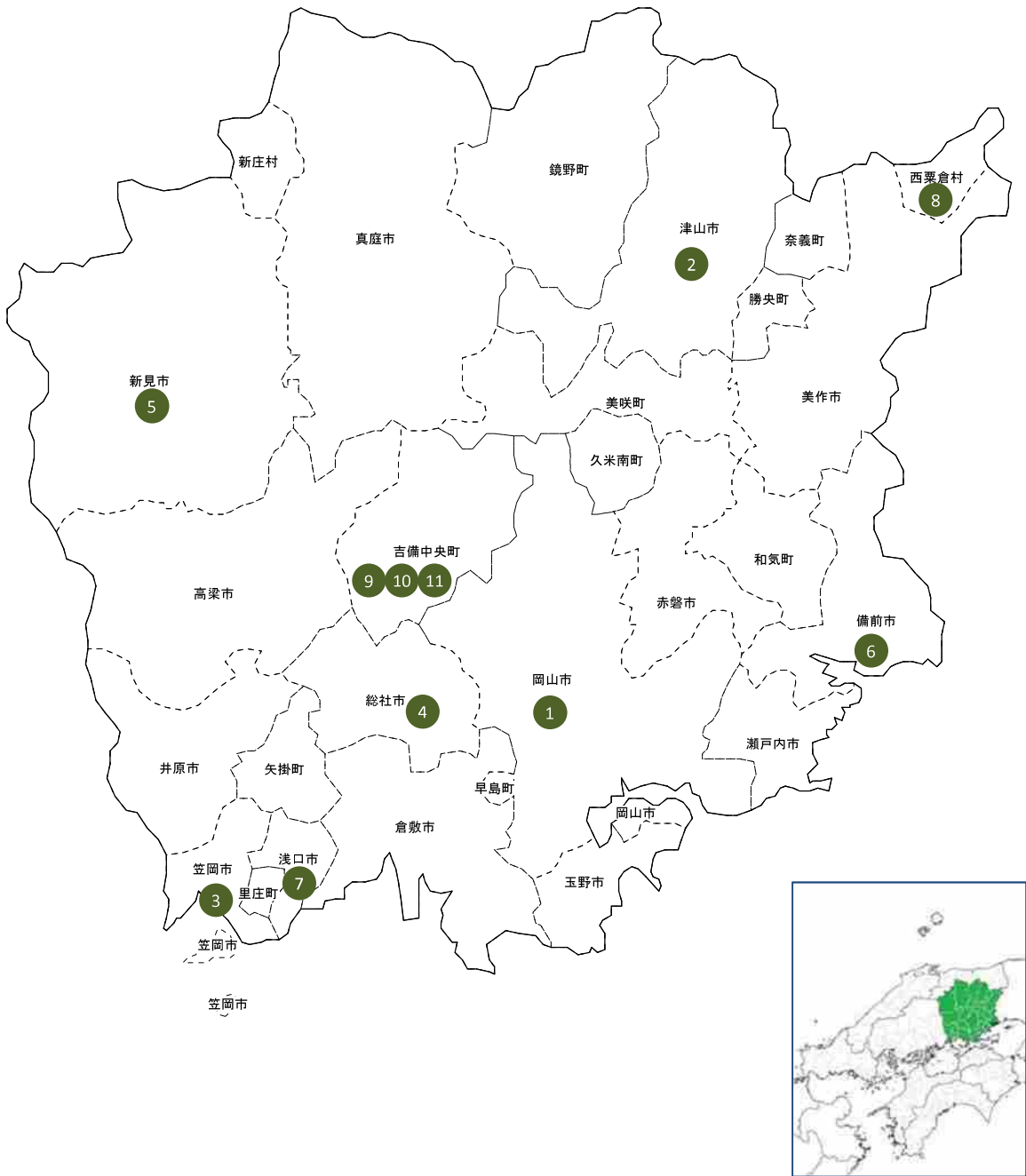
高校生ジビエ・レストラン出店



「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第8回選定) 応募地区(者) 一覧 (岡山県)

No.	選定地区	部門	市町村	地区名/氏名	該当する取り組み		
①		個人	岡山市	植田 輝義	企業との連携	復興	農福連携
②	奨励賞	コミュニティ	津山市	岡山県立津山東高等学校 食物調理科	地産地消	食育・教育	学生・若者の活躍
③		個人	笠岡市	寺田 伊織	農林漁業	企業との連携	学生・若者の活躍
④		ビジネス	総社市	レッドライスカンパニー株式会社	6次産業化	輸出	伝統の継承
⑤		コミュニティ	新見市	草間台エコミュージアム推進協議会	農村文化体験	耕作放棄地対策	環境保全・景観保全
⑥		コミュニティ	備前市	東鶴山地区を元気にする協議会	6次産業化	高齢者の活躍	女性の活躍
⑦		コミュニティ	浅口市	スエ吉ファーマーズ	耕作放棄地対策	高齢者の活躍	学生・若者の活躍
⑧		ビジネス	西粟倉村	株式会社西粟倉・森の学校	農林漁業	6次産業化	学生・若者の活躍
⑨		ビジネス	吉備中央町	吉備中央町農家民宿推進協議会	農村文化体験	移住・定住	教育機関との連携
⑩		個人	吉備中央町	田中 美津子	農泊	農村文化体験	高齢者の活躍
⑪		コミュニティ	吉備中央町	ブッポウソウ吉備中央町会	環境保全・景観保全	教育機関との連携	高齢者の活躍

# 応募地区（者）位置図（岡山県）



1

おokayama

岡山県岡山市

企業との連携

復興

農福連携



優秀賞

うえだ てるよし  
植田 輝義

～農業を通じて皆様を繋ぐ架け橋になりたい！！～



全身黄色！自称黄ニラ&amp;岡パク大使として活動



岡山交通株式会社タクシー乗務員と黄ニラ大使

## 経緯

- 生まれて初めて食した黄ニラのお味噌汁に感動し、1999年に脱サラし、兵庫県から婿養子として岡山の黄ニラ農家へ就農。
- 就農の翌年2000年からパクチー栽培に着手し、黄ニラとパクチーのブランド化を目指し一人奔走開始。

## 取組内容

- 全身黄色を身にまとい、自称「黄ニラ&岡パク（岡山パクチー）大使」として、メディアへの積極的参加や各種祭りを通して大いに産地をPRするとともに、学校、福祉企業との連携を強化。
- 黄ニラタクシー（岡山交通（株）とのコラボ）の誕生とタクシー乗務員に農業指導。
- 黄ニラを使った新商品を委託製造。その商品を日本航空のファーストクラスの機内食として委託販売（令和3年2月中～3月中旬）。

## 活動の効果

- 黄ニラ、パクチーのPR活動を通じ、町内会、農協、行政、飲食店や小中高等学校等とのコラボが年々増加。
- 岡山特産黄ニラ、パクチーのブランド化が着実に進み、年々注目度が上昇し、農業高校生や農業大学生たちの就職希望者が増加傾向。
- ぐるなび総研「今年の一皿 パクチー料理」岡山県大賞（2016年）、第8回「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」優秀賞（個人部門）（2021年）など受賞。

## 応募者からのアピール・メッセージ

西日本豪雨の被害や新型コロナウイルス感染症の影響を受けてしまったが、事態に対応し、困難に打ち勝つ株式会社アーチファームは、農業と皆様をつなぐ架け橋として農業に勤しみ、岡山農業、そして日本の農業を支えるべき使命感を持って、力強く取り組む。

岡山市北区牟佐3060 Tel: 086-229-1129

2

つやま  
岡山県津山市

地産地消

食育・教育

学生・若者の  
活躍

奨励賞

おかやまけんりつ つやまひがしこうとうがっこう

しょくもつちょうりか

## 岡山県立津山東高等学校 食物調理科

～地域の食材でみんなを笑顔に～



生徒企画・運営のつやましょうがまつり



地産地消オリジナルレシピコンテスト

## 経緯

- 津山市では昭和30年代からしょうがの栽培が続いているが、地域の住民にほとんど認知されていなかった。
- 食について学ぶ生徒が、地域の食材について理解を深め、食材の良さを地域に広めることを目指し、しょうがの栽培を開始。

## 取組内容

- 関係機関や地元農家の協力のもと、しょうがの植え付けから収穫までを行う。
- 津山市・地元企業などの協力のもと、独自の料理コンクールや生徒が企画・運営する「しょうがまつり」を開催。
- 地域の食材を使用した商品開発を行い、しょうがシロップや津山産小麦のホットケーキミックス、作州栗のマロングラッセなどのレシピを企業に提案して商品化。

## 活動の効果

- しょうがの栽培体験や「しょうがまつり」の開催により、地元では”津山＝しょうが”のイメージが定着した。
- 料理コンクールの開催(参加)により、地域の食材を料理に活用し、自ら発信することで、地域の活性化に貢献。多くの生徒が地域に誇りを持つことができた。料理コンクール等で評価されることにより、生徒一人ひとりの自信に繋がった。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

今後も、このような取組を継続・深化させることで、地域活性化に貢献していきたい。

津山市林田1200 Tel: 0868-22-9307

てらだ いおり  
 寺田 伊織

～未利用魚を使って新しい価値を創造！～



模擬せりイベントの様子



高校生の商品開発の様子

## 経緯

- 趣味である市場巡りの中で、年々衰退していく様子を見て大学で学んだスキルを活かして地方を活性化したいと考え、地域おこし協力隊として水産振興を実施。
- 活動を進める中で、地域の魚卸業者や魚好きの高校生らと出会い、現在の活動に至る。

## 取組内容

- 漁師の新たな収入源となるよう、底引き網漁の未利用水産物であるガラ(ウニ、カニ、ヒトデ等)を用いたハンドメイドやインテリア標本の作成。
- 消費者に水産物を身近に感じてもらうための漁やせりのライブ配信、模擬せりを実施。
- 地元高校生を主体とした水産グッズブランドを立ち上げ、骨や鱗等を利用し、食べるだけではない魚の魅力を発信。

## 活動の効果

- 地域おこし協力隊の活動を通じ、漁師や地元漁業関係者等と信頼関係を構築し、イベント等を行っている。
- 漁やせり等のライブ配信により地域の子もたちの水産業を知るきっかけづくりとなっている。
- 水産グッズブランドの一部の処理や製作を障がい者福祉施設に行ってもらうなど、地元企業との連携が進んでいる。

## 応募者からのアピール・メッセージ

実際にビジネスとしてサステナブルに成り立つような設計とブランディングを行っていくとともに、高校生との連携を強化し、現在の事業の拡大や新たな試みを行っていききたい。

かぶしきがいしや  
レッドライスカンパニー株式会社

～岡山の赤米を地域の財産に、そして世界へ～



赤米の田植えイベント



赤米フェスタ中の写真

### 経緯

- 岡山県の認知度が低いことに衝撃を受け、もっと全国的に岡山県をPRするために、赤米を使用した商品展開を目指し起業。
- 加工品の価格を抑えるために自社でも栽培を開始。
- 赤米を地元の子どもなどへ周知するため、様々なイベントを開催。

### 取組内容

- 古代より神事に使用され受け継がれてきた「総社赤米」とモチ品種により育種された「あかおにもち」の生産を開始。現在では、耕作放棄地も活用し生産。
- 赤米を活用した甘酒や麴、赤米成分をアピールし、時代ニーズにあった商品の開発・販売など6次産業化を実践。
- 健康志向の高い米国人向けに甘酒の輸出を開始(R2年)。

### 活動の効果

- 赤米食育プロジェクトの実施により、田植えや稲刈りなど学校教育で赤米が活用されるとともに、平成30年からは小中学校の給食に赤米を提供。
- 平成27年から様々なイベントの開催により、多くの人々が来場するとともにマスコミも多数訪問するなど、新たな観光資源を創出。
- ご当地ドリンクグランプリ(白桃ネクター)金賞・商品魅力賞・味の評価審査賞(主催:FOODEX JAPAN)などの賞を受賞。

### 応募団体からのアピール・メッセージ

赤米を地元根付いたものにし、子どもたちが赤米を伝統ある「宝」として認識し、守っていこうという意識を醸成するため、食育活動などに積極的に貢献していきたい。  
岡山がフルーツ王国として生果をアピールする上で、生果のない時期に名刺代わりとなるような商品づくりを行い、岡山県の特産品の知名度向上に貢献していきたい。

5

 にいみ  
 岡山県新見市

農村文化体験

耕作放棄地  
対策環境保全・  
景観保全

くさまだい

すいしんきょうぎかい

## 草間台エコミュージアム推進協議会

～発見草間台 発信草間台 進化草間台～



新たなガイドブックの作成



情報発信 ホームページのリニューアル

### 経緯

- 地域を、自然や産業・歴史文化等の宝が豊富なエコミュージアム（屋根のない博物館）として捉え、資源を活かした地域振興を図ろうと考え、団体を設立（H22）。
- 里山の環境を維持・保全し、希少な動植物を保護するため、耕作放棄地の解消等が必要となっていた。

### 取組内容

- 地域特産品のそばや、きのこの栽培体験、鍾乳洞（観光鍾乳洞以外）の探検を実施。
- コロナ終息後の誘客を目指し、都市住民との交流（エコツアー）のため、ガイド養成講座の実施や新たなガイドマップを作成。
- フェイスブックやHPを活用し、観光・イベント・農業体験等の情報を発信する中、HPを刷新し、地域内外への発信力を強化。

### 活動の効果

- 地域特産品のそばや豊富にあるコナラ等を利用したイベントに取り組み、耕作放棄地の解消や里山の荒廃を防止。
- 農業体験等の都市住民との交流により、地域農業の振興と生産者の営農意欲の増進にも貢献。
- ガイドマップ・HPの刷新やタイムリーな情報発信により観光客が増加。

### 応募団体からのアピール・メッセージ

新たなイベント（農業体験等）により来訪者の獲得に力を入れるとともに、耕作放棄地になりかけた畑でのそば栽培を引き続き進めたい。また、全国から訪れるケイビングクラブとの交流を通じた草間台地の魅力発信や地元小学生の支援を行い、郷土愛を育てていきたい。

岡山県新見市草間7471-1 Tel:0867-74-9001

ひがしつるやまちく きょうぎかい  
東鶴山地区を元気にする協議会

## ～ふるさと再生 女性・高齢者の活躍～



ふるさとサロン



「花しょうぶ祭り」小学生招待

## 経緯

- 少子高齢化が進み、空き家や耕作放棄地が増加し、山林の管理も問題化。
- 集落機能の維持・強化や地域の活性化を目的に「おかやま元気集落」に登録し、空き家対策や6次産業化へ取り組み、人口の減少を食い止めたいと協議会を設立(平成27年)。

## 取組内容

- 耕作放棄地に花しょうぶを植え付け、「花しょうぶ祭り」(6月)などのイベントを開催し、景観形成と地区内外の交流を実施。
- 耕作放棄地で野菜やタケノコを栽培し、直売所やイベントで販売。地元で採れるさつまいもを焼き芋として振る舞う「いも祭り」を開催。
- 週5日の軽食喫茶や月1回の「ふるさとサロン」を開催し、地元野菜や加工品を販売。
- 当該地区の道路のゴミ収集やガードレール清掃の実施、夏祭りなどの地域活動に参加。

## 活動の効果

- コロナ禍により、令和2年度以降のイベント等は開催できていないが、それまでは、イベントへの参加者が増加するなど、地域内外の交流が活性化。併せて地元産の果物や野菜を使った加工品の製造・販売を行う6次産業化への機運が上昇。
- 女性部会会員がふるさとサロン等を開催し、野菜や加工品を販売することにより、女性・高齢者が活躍。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

サロンなどのイベントの開催に加え、地域内外のイベントに積極的に参加し、地域住民や会員相互の交流・連携をより活発化していきたい。

6次産業化に積極的に取り組み、地域の特産品作りや魅力発信を行うことで、耕作放棄地や空き家の増加に歯止めをかけたい。

海や山や里などの豊かな自然環境を活かし、若年層の定住化、子育てしやすい環境形成に取り組み、人口の減少を食い止めたい。



きち  
スエ吉ファーマーズ

～多世代・多地域のつながりで耕作放棄地の解消と健康増進！～



団体メンバー



漬物教室の様子

## 経緯

- 耕作放棄地の増加による景観の悪化、独居高齢者の孤立、多世代での住民交流の機会の減少などの課題が増加。
- 地域へ恩返ししたい、人が喜ぶことに取り組みたいとの想いで、活動を推進。

## 取組内容

- 住民アンケートの結果を踏まえた作物を栽培することで、地区住民を巻き込んだ耕作放棄地対策を実施。
- 子ども会など各種地元団体との芋ほり体験餅つき大会など交流活動の実施。
- 地区内外の様々な方々がスエ吉の活動を介してつながりあう仕組みづくり。

## 活動の効果

- 交流活動の実践により、産品購入者や作業支援者の増加、さらに地元高校とつながり、農業体験、イベント出店や販売・広報支援など農業を通じた教育機会を創出。
- 活動体制の構築により、耕作放棄地解消の輪や農業を介した交流の輪が広がるとともに、マルシェ出店者同士がつながったり、特産品を開発したり、販路が拡大するなどの市内農業活動が活性化。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

地元各種団体、イベント来場者との交流によって活動協力者・ファンを拡大していくことで、農業を通じた地域活性化、高齢者福祉の向上に貢献したい。



かぶしがいしゃ にしあわくら もり がっこう  
株式会社西粟倉・森の学校

～モノづくりのきっかけに出会う端材販売所～



販売する端材製品のイメージ



HAZAI MARKETのイベント

### 経緯

- 工場の生産量が増えるに従い、製造工程でラインアウトする端材が増加し、置き場や焼却の手間などが課題。
- 端材は、DIYユーザーにとってはお値打ちで面白い木材であることが分かり、価値を見出し、端材販売所 HAZAI MARKETを社内に立ち上げた(令和2年)。

### 取組内容

- 業者向けに販売できない規格外製品を、一般向けに販売する取組を構築。
- DIYユーザーに、一点モノ端材をお値打ち価格で販売。
- 人口約1,400人の村に620人も来客するような、モノづくりの体験や端材の購入ができるイベントを開催(令和3年春に2日間開催)。

### 活動の効果

- 端材販売が近隣のDIYユーザーに喜ばれるだけでなく、ゴミが減り利益も増えることで会社にとっても喜ばしい取組となった。
- 全国に存在する製材会社(約5,000社)も端材の処理に困っている場合が多く、小資本で利益率の高い事業となるため、ノウハウの横展開も期待できる。
- イベントによる集客が地域の活性化に繋がった。

### 応募団体からのアピール・メッセージ

端材販売所に加え、令和4年3月にオープンする観光型いちご農園、カフェ等を複合施設にすることで、更なる地域活性化に貢献したい。

きびちゅうおうちやうのうかみんしゆくすいしんきやうぎかい

## 吉備中央町農家民宿推進協議会

～ 家族として受け入れる！～



特産品収穫体験の様子



台湾高級中学の教育旅行受入の様子

## 経緯

- 農家の高齢化、都市部への人口流失による農業後継者不足等の課題が拡大。
- 町の持つ豊かな自然と田舎に暮らす人々の豊かな温もりを活かした特有の観光資源を発信するため、協議会を設立(平成27年)。

## 取組内容

- 各農家民宿が連携して受け入れできる体制を整備し、「田舎に出会うツアー」や「SDGs体験プログラム」などを提供する農家民宿を核とした体験型教育旅行を実施。
- 多言語対応やハラル対応など、海外の教育旅行生を受け入れできるよう訪日教育旅行の誘致に向けた取組を実践。
- 地元への愛着感が高まりUターンしてもらえるよう、町内外の小中学校を対象に食育推進や農業体験等を実施。

## 活動の効果

- 宿泊客の増加、地域ぐるみでの農家民宿の実施により、地域の活性化や地域全体での農家所得の向上に繋がっている。
- 日本の伝統的な農村文化体験を求める台湾など海外の教育旅行を誘致し、町の持つ特有の観光資源を発信している。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

農家民宿や地域資源を活用した体験型・滞在型観光を推進するとともに、国内外教育旅行の誘致による交流滞在人口・関係人口の増加と地域経済の活性化に取り組んでいく。

農家民宿経営が農閑期の副収入として確立されたことから、町内において農家民宿新規開業者の増加を目指す。

たなか みつこ  
田中 美津子

～おふくろの味を堪能したけりゃ、来てみられ！～



農家民宿 みっちゃん 夫婦



台湾高校教育旅行 ちらし寿司・浴衣着付け体験

## 経緯

- おもてなしや接客が好きなこともあり、吉備中央町地産地消推進協議会の会員として、町内の保育園児を対象とした食育事業に参加。
- 当該事業を通じて、子どもたちとのふれあいに力を入れて活動を行うようになる中、農家民宿に興味を持ち、開業(平成28年)。

## 取組内容

- 野菜は自家菜園やご近所で採れたものを使い、味噌や醤油は手作りするなど、農家民宿で食べる食材はすべて地元産にこだわり、都会の人が忘れがちな採れたての新鮮な野菜で作る田舎料理を提供。
- 家庭環境など特殊な事情で不登校になっている子どもたちの里親として、面倒をみるとともに復学も支援。
- コロナ禍で、県内の学校を中心としたPR活動と新たな体験コンテンツを開発中。

## 活動の効果

- ありきたりな日常、田園風景、食を活用した農家民宿経営や農村体験プログラムを通じた「また会いたくなる町づくり」の実践により、コロナ禍の前までは、宿泊数、教育旅行受入学校数とも増加傾向(令和3年度は、回復傾向)。

## 応募者からのアピール・メッセージ

幅広い年代・国の方々と文化的な交流により、親睦を深めていきたい。  
宿泊客に“第2のふるさと”と思ってもらうことで、いつか吉備中央町への移住に繋がることを目指している。

## ブッポウソウ吉備中央町会

～日本一！森の宝石・ブッポウソウに会える町～



ブッポウソウ観察小屋「横山様」



フォトコンテスト表彰式及び講演会

## 経緯

- ブッポウソウ（野鳥）の保護活動の拡大に伴い、観察者の増加とともに町民とのトラブルが増加。
- 問題解決のために、観察所を整備し、より積極的な保護活動と、ブッポウソウを通じた地域おこしを行うべく会を発足（平成28年）。

## 取組内容

- 町内に約70個の巣箱を設置・管理し、生育状況調査や年に一度の清掃活動を実施。
- ライブカメラによる巣箱内部等の情報発信や、写真・絵画等のコンテストを開催するなど普及啓発を実施。

## 活動の効果

- 高齢者が積極的に参加・活躍するとともに、地元小学校との連携により、子どもたちのブッポウソウへの関心が増大。
- 美しい里山の景色を背景に、至近距離で観察・撮影ができることから、愛鳥家や野鳥写真家が多数訪問。
- 会の積極的な活動により、ブッポウソウは町の夏の風物詩として、町民にとって身近な存在となり、令和元年には「町の鳥」に制定。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

巣箱の維持管理を継続し、個体数の増加を目指すとともに、野鳥の会や研究機関と連携し、環境保全と生態調査に努める。

観察所への来所者を積極的に受け入れ、「ブッポウソウ観察所日本一」や吉備中央町の豊かな自然を広く町内外にPRしていく。

地元の子どもたちがブッポウソウを通して地域へ愛着が持てるよう啓発を行っていく。